

平成26年11月13日

学生諸君へ

学生委員会委員長
武藤 睦 治

雪道の安全運転について

本学学生の雪道における交通事故が、毎年多発しております。下記のこと十分に注意してください。

(1) 雪道では、バイクや自転車を運転しないこと。

※ スリップによる転倒事故が起きています。

(2) 車を運転する際は、スピードを出さないこと。

※ 急ブレーキを踏むとスリップ事故につながります。

また、初めて雪道で車を運転する学生は、雪道の運転に関する技術・準備等について確認のうえ、運転してください。

雪道での安全運転については、学生生活ガイドブックの交通安全対策に掲載してありますので、冬期に運転する学生諸君は、必ず熟読してください。

2. 交通安全対策

近年、学生の死亡・重傷事故が多く発生しています。事故は、加害者・被害者を問わず、精神的にも経済的にも大きな負担を強いることとなりますので、運転をする際は、交通ルールを遵守し、細心の注意を払ってください。

もし、事故に遭った時は、速やかに学生支援課まで連絡をしてください。

また、長岡市は県内の中でも豪雪地帯であるため、冬の積雪時期においては通常の運転時に加えて更なる注意が必要となります。

運転前には、車上の積雪が運転中のフロントガラスに落下し、視界が遮られることを回避するために車上の積雪を落とすなど、冬ならではの対応が必要となります。

運転中においても、道路の凍結やわだちなど道路の路面状況が運転に影響するため、スピードの出しすぎには十分注意し、適切な車間距離を確保するなど、通常時以上に細心の注意が必要となります。

大学では毎年11月ごろに、雪道での安全運転講習会を開催します。自動車を運転する学生は講習会へ参加するとともに、以下の注意事項をよく読み、雪道での安全運転に役立ててください。

(1) スリップ事故を防ぐためには	
減速は早めに！	スタッドレスタイヤを装着していても、雪道ですぐに止まりません。早めに減速し、ゆとりを持って停止してください。ABSが装着されていても、過信してはいけません。
「急」のつく運転は絶対しない！	「急ブレーキ」はスリップ、「急ハンドル」はスピン、「急加速」は空回りの原因となります。ゆとりを持ったブレーキ操作とハンドル操作を心がけてください。
路面状況に注意！	<ul style="list-style-type: none"> ■ わだちや凸凹のある路面では、横滑りやスピンしやすくなります。このような道では、ゆっくりと走行してください。特に、わだちから抜けて右折左折する際には、ハンドルがとられないよう注意してください。 ■ 橋や高架道路は凍結しやすくなります。トンネルの出入口は日陰になっているため、建物の日陰等と同様に路面が凍結しやすくなります。他の路面が乾いていても、そこだけ凍っている場合があるので注意してください。 ■ 新雪が積もった直後（特に圧雪前）は、路肩の雪壁と道路の区別がつかなくなり、雪壁に追突したり、ふきだまりの雪にハンドルをとられたりします。また、車体が雪に乗り上げたり、側溝やぬかるみにはまって動けなくなりますので注意が必要です。 ■ 凍結路面に新雪が積もった場合は、凍結面が見えにくく、特に滑りやすいので慎重な運転が必要です。極力、低速走行を心がけてください。 ■ 路面凍結時の急な上りの坂道での発進は、ゆっくりスタートしないとタイヤが空回りして動けなくなります。また、急な下りの坂道では、ローギアに入れたまま、軽くブレーキをきかせながら、ゆっくり走行することが肝要です。
(2) 衝突事故を防ぐためには	
車間距離の確保とスピードは控えめに！	スタッドレスタイヤを装着していても、雪道ですぐに止まりません。前方車が急停止しても追突しないよう、十分な車間距離（夏道の3倍程度）を取るとともに、スピードの出しすぎに注意しましょう。

<p>視界の確保！ 慎重な運転！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 激しい降雪や吹雪のときは視界が悪く、ワイパーもきかなくなり、前方車の停止ランプに気がつくのが遅れることがあります。このようなときは、ライトを点灯するとともにスピードを落とし、前方車との車間距離を十分にとるように心がけてください。 ■ 晴れていても強風のときは、路面や路肩の雪が地吹雪となって急に視界を妨げたり、路面が凍結します。突然このような状況に遭遇しても、「急ブレーキ」や「急ハンドル」操作をしなくてすむよう、常に注意しながら運転してください。 ■ 気温が低いときは、前方車が路面の雪を巻き上げる「雪煙」により、吹雪のときと同様に急に視界が悪くなるので注意が必要です。また、車の屋根に雪が積もったまま走行している車を見つけたときは、その雪が自分の方に落下したとしても適切に対処できるよう、注意しながら運転してください。
---------------------------------	---

(3) その他の注意事項

<p>運転前に</p>	<p>車の屋根に雪が積もった状態では、絶対に運転しないでください。走行中に雪が落下して事故の原因になります。必ず、スノーブラシ等で雪を落としてから運転してください。また、フロントガラスが凍っている際は、市販の解氷剤又はお湯で氷を解かしてから運転してください。</p>
<p>駐車場の除雪</p>	<p>雪が積もったままのスペースにバックで駐車すると、マフラーに雪がつまり、排気ガスが車内に逆流することがあります。必ず、スペースの除雪をしてから駐車してください。</p>
<p>駐車時のブレーキング</p>	<p>気温が低いときに長時間駐車すると、ブレーキが凍結して戻らなくなることがありますので注意してください。</p>
<p>駐車時の凍結注意</p>	<p>気温が低いときはワイパーブレードを立て、ゴムがガラスに接触しないようにして凍結を防いでください。ドアの鍵穴が凍結したときは、お湯をかけるなどして温めてください。</p>

(4) 冬の運転の必需品

冬道の運転では、様々なアクシデントが起こります。そんなときに十分対応できるように、次のような装備を携行しておくことが必要です。また、運転前の点検・整備も忘れないようにしましょう。

<p>タイヤチェーン</p>	<p>凍結路面などでのスリップ防止に効果的です。</p>
<p>スコップ</p>	<p>駐車場から発進するときや雪にはまった時の除雪作業に便利です。</p>
<p>軍手・長靴・防寒着</p>	<p>車外での作業に寒さから身を守ってくれます。</p>
<p>スノーブラシ</p>	<p>屋根や窓ガラスに積もった雪を取り除くのに役立ちます。</p>
<p>懐中電灯</p>	<p>夜間の作業には必需品です。</p>
<p>けん引ロープ</p>	<p>雪にタイヤがはまって動けなくなってしまった時、脱出するのに役立ちます。</p>
<p>ブースターケーブル</p>	<p>バッテリーがあがってエンジンがかからなくなった時に使います。</p>
<p>その他</p>	<p>毛布、砂、解氷剤 etc.</p>

(参照)

新潟県警察「冬道の安全走行」

<http://www.police.pref.niigata.jp/anzen/fuyumiti24/>

国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所「雪道運転テクニック」

<http://www.hrr.mlit.go.jp/chokoku/michi/technic/>